

第35期第6回常任理事会議事録

日 時：2009年1月22日（木）13時00分～16時00分

会 場：日本気象学会事務局（気象庁8階）

出席者：新野，藤谷，石田，田中，近藤（裕），佐藤，中島，中村，藤部，以上9名（常任理事
現在数13名）

欠席者：岩崎，里村，近藤（豊），中本，以上4名

その他の出席者：鈴木，田沢，萩原（事務局）

議 事

1. 第35期第5回常任理事会議事録の確認
2. 第35期第4回理事会議事録の確認
3. 各委員会からの報告

庶務…転載許可

- 1) 富山大学出版会から，藤沢仰，川村隆一．北陸地域における冬季雷の傾向と落雷発生環境．天気．2005，Vol. 52，No. 6，449-460 の第5図を富山県発行の「北東アジアの自然と環境」（仮題：2009年3月発行予定）への転載．
- 2) 情報・システム研究機構 国立極地研究所山内恭教授からTakashi Yamanouchi. Variations of Incident Solar Flux and Snow Albedo on the Solar Zenith Angle and Cloud Cover, at Mizuho Station, Antarctica. JMSJ. 1983, Vol. 61, 879-893, Fig. 4, 9 を「南極・北極の気象と気候（仮称）」（2009年2月頃株式会社成山堂書店発行予定）への転載．
- 3) 奈良女子大学図書館電子情報係森下さんからSachiko Hayashida and Takafumi Sugita. Hemispheric Contrast of Inorganic Chlorine Partitioning in the Polar Lower Stratosphere during Ozone Recovery Period Observed from Space. SOLA. 2007, Vol. 3, 117-120. とS. Hayashida, N. Urita, K. Noguchi, X. Liu and K. Chance. Spatiotemporal Variation in Tropospheric Column Ozone over East Asia Observed by GOME and Ozonesondes. SOLA. 2008, Vol. 4, 117-120. を奈良女子大学学術情報リポジトリへの転載．

・後援名義等使用依頼受付

名称：第46回アイソトープ・放射線研究発表会

- 1) 主催：社団法人日本アイソトープ協会
- 2) 期日：2009年7月1日（水）～3日（金）
- 3) 場所：日本科学未来館（東京都江東区）
- 4) 名義：共催

名称：第55回風に関するシンポジウム

- 1) 主催：水文・水資源学会，大気環境学会，土木学会，日本海洋学会，日本風工学会，日本気象学会，日本建築学会，日本航空宇宙学会，日本砂丘学会，日本沙漠学会，日本雪氷学会，日本地理学会，日本熱帯農業学会，日本農業気象学会，日本流体力学会，農業施設学会，農業農村工学会
- 2) 期日：2009年3月19日（木）10:00～18:05
- 3) 場所：日本大学理工学部駿河台校舎1号館6階CSTホール（東京都千代田区）
- 4) 名義：共催

- ・文部科学省からの「平成20年度特例民法法人概況調査」について回答した。
- ・文部科学省から国家公務員法等の一部を改正する法律等が施行されたことに伴い、「国と特に密接な関係がある」特例民法法人であるか否かの書類を作成・公表すること及び総務省へ報告することを依頼された。「国と特に密接な関係がある」特例民法法人でないと総務省へ報告した。

会計…2008年12月分の収支及び現預金検査報告。

天気…Vol.56 No.1（2009年1月号）の掲載記事と、Vol.56 No.2（2009年2月号）予定記事の報告。

- ・2009年の天気印刷業務を落札した学術図書印刷株式会社が入札条件を満たしていないことが判明したため、入札第2位の三報社印刷株式会社に業務請負を依頼し、新たに契約した。

気象集誌…第87巻第1号掲載予定論文の紹介。

SOLA…現在処理中の論文の報告。

- ・新たなパンフレットを作成したことが報告された。

講演企画…地球惑星科学連合大会へ気象学会としてレギュラーセッションの提案をするかどうか検討を行い、提案することが承認された。内容について今後検討を行う。

- ・上記に関連して春季大会との関係について検討を行った。

総合計画…各地方支部の独自活動について、照会結果が報告された。提案された活動について、担当理事と事務局で精査し、各支部と調整のうえ、最終案を理事会に提案して承認を受けることとなった。

学術…現在検討中である気象学会の「社会貢献活動に関する中長期目標」及び「研究活動支援に関する中長期目標」について、途中経過が報告された。

教育と普及…第3回委員会議事の紹介。

国際学術交流…日中韓気象学会共催国際会議は口頭発表に3会場、ポスター発表に1会場を使う予定であることが報告された。

電子情報…2008年12月の気象学会ホームページのアクセス状況（94,064件）。アクセス数はほぼ昨年並みか1日当たり100件ほど多い状況を保っている。

- ・公募情報掲載件数10件、内海外5件

4. 会員の加入・退会

新入会員12,退会134を承認。2009年1月20日現在、会員数3,915名で通常会員は1,091名。

5. 共同利用・共同研究拠点化申請について

共同利用・共同研究拠点の申請に関わる認定の要請が、名古屋大学水循環研究センター及び千葉大学環境リモートセンシングセンターの2機関からあった。学会で策定した認定のガイドラインに基づいて検討を行い、両機関について要請することを承認した。また、要請文案を作成し先方に確認を依頼することとした。

6. 補助内規の一部改正について

第3回理事会で承認された支部交付金及び委員会の活動経費の改正に合わせて補助内規を改めることが承認された。

7. その他

(1) Planning Meeting for International Forum of Meteorological Societies (IFMS) について

各国の気象学会からなる上記会合に出席した藤部理事より報告があった。

(2) 「環境・災害対応委員会」委員について

地球惑星科学連合より同連合の「環境・災害対応委員会」に委員を推薦するよう依頼があり、検討を行った。

(3) 気象学会として提言や声明などを行う際の仕組みについて今後検討していくこととした。

平成21年 2月25日

社団法人日本気象学会

議 長 新野 宏

署名人 中本 能久

署名人 石田 純一